

# 平成 12 年度日本周辺高度回遊性魚類資源対策調査

(抄録)

高坂 祐樹

## まぐろ類について

青森県の 2000 年のクロマグロ水揚量は、調査の対象である 7 地区を合計すると 146.4 トンで、前年の 83.7 トンより 76% の増加となった。地区別に見ると六ヶ所が 5.8 トン (前年比 200%)、尻労が 21.6 トン (同 196%)、大間が 75.7 トン (同 220%)、三厩が 20.3 トン (前年は 6.2 kg)、深浦が 8.7 トン (前年比 50%)、岩崎が 11.6 トン (同 86%) であった。八戸ではクロマグロが 3.2 トン、キハダ 2.1 トン、メバチ 1.3 トン、ビンナガが 4.4 トン水揚げされた。

三厩では 1995 年以降クロマグロの水揚げが減少し、1997～1999 年の 3 年間は 1 トンにも満たないほど水揚量は低迷していた。しかし、2000 年は 20.4 トンの水揚を記録し、1992 年に調査を開始して以来もっとも多い水揚げとなった。同じ津軽海峡の大間地区と漁獲されたクロマグロの体重組成を比較すると、130 kg ぐらいまでは同様のピークを持つ体重組成を示していたが、三厩では 150 kg 以上の個体が大間地区に比べ極端に少なかった。

## さめ類について

八戸における 2000 年のさめ類の水揚量は 358 トンで、前年の 530 トンを大きく下回った。魚種別に見ると、アブラツノザメが 333 トン (前年比 66.2%) と減少したが、ネズミザメは 16.4 トン (同 105.4%)、ホシザメは 8.8 トン (同 99.9%) と横ばいに推移した。